

知床半島ヒグマ保護管理方針の総括（概要版）

□資料 1-1：斜里町と羅臼町におけるヒグマの人為的死亡数

- －H24～28、ヒグマの人為的な死亡数は計 187 頭（平成 28 年 12 月末時点）。
- －人為的な死亡数は、H24 は 67 頭、H25 は 14 頭、H26 は 19 頭、H27 は 68 頭、H28 は 19 頭と推移。H27 の人為的死亡数は、S50 以降で過去最多。
- －5 歳以上メスの人為的死亡数は、H24～28 の 5 年間で 38 頭。（ただし、狩猟による捕獲で詳細不明のメス 1 頭は含まない）。

□資料 1-2：人とヒグマの軋轢（人身・経済被害、危険事例、遊歩道閉鎖等）の発生状況

- －H24～28 は引き続き人身被害なし。
- －H24～28、危険事例は斜里町で 81 件、羅臼町で 18 件、標津町で 6 件発生。
- －斜里町における農業被害金額・面積は、H22 以降は減少傾向だったが、H27 は一転して増加。H28 は集計中。
- －知床五湖では利用調整地区制度を導入（H23～）、フレペの滝遊歩道は H24 と H27 に遊歩道閉鎖が多数発生。
- －知床連山登山道では、ヒグマ滞留による登山者の停滞、野営場でのテント破損事案が発生。

□資料 1-3：ヒグマ対策活動の実施状況

- －斜里町と羅臼町において、H24 と H27 はヒグマの目撃件数が例年と比較して突出して多く、「大量出没年」であった。
- －H24～28 に実施したヒグマ対策活動件数は、斜里町で 3,972 件、羅臼町で 881 件、標津町で 175 件であった。
- －ゾーン別・行動段階別では、斜里町ではゾーン 3・行動段階 1 の対応件数が過半数を占めた。羅臼町ではゾーン 5・行動段階 1 およびゾーン 3・行動段階 1 が過半数を占めた。

□資料 1-4：調査研究・モニタリングの実施状況

- －保護管理方針に掲載された調査研究・モニタリング項目のうち、実施は 13 項目、未実施は 4 項目であった（H28 時点）。

□資料 1-5：普及啓発活動の実施状況

- －H24～28、学校教育内での普及啓発活動は 3 町（斜里町、羅臼町、標津町）で計 65 回実施。
- －H24～28、ヒグマに関する講習や情報交換会等については 3 町で計 17 回実施。
- －国立公園利用者を対象に、H25 から「知床ヒグマえさやり禁止キャンペーン」を実施。